

令和5年度 第2回大田圏域地域保健医療対策会議 医療・介護連携部会  
(大田圏域地域医療構想調整会議関係者会議) 議事概要

【日 時】令和5年10月12日(木) 18時00分～20時00分

【開催方法】オンライン開催

【出席者】医師会、歯科医師会、薬剤師会、病院、訪問看護ステーション協会  
介護支援専門員協会、老人福祉施設協議会、介護サービス事業者協議会  
市町(委員:18名、オブザーバー:2名)

【議事内容】

1. あいさつ
2. 協議事項
  - (1) データでみる大田圏域の現状・課題と議論の方向性について
  - (2) 第8次島根県保健医療計画の策定について
3. 報告事項
  - (1) 公立邑智病院における公立病院経営強化プランについて
  - (2) 外来医療計画における新規開業者への協力事項及び医療機器共同利用計画について
  - (3) 診療所の廃止について

【主な意見・協議結果】

1. あいさつ
2. 協議事項
  - (1) データでみる大田圏域の現状・課題と議論の方向性について
    - 健康課題の改善のための継続した啓発と対象を絞った取組  
健診受診率の向上と健康づくり活動及び働き盛り世代を中心としたライフステージに応じた取組を各団体と連携して進めていくことが重要
    - 医療需要の変化を見据えた医療提供体制の構築  
大田圏域は入院・外来・在宅医療の需要はいずれもすでに減少へ転じている診療所数も減少しており、病院が在宅医療を含めた一次医療を補完するための方策について検討する必要がある
    - 医療介護従事者の確保と業務効率化の推進  
地域に不可欠な医療介護機能を維持するためには、従事者の確保が必要  
限られた医療資源を最大限に生かすため、ICTの活用等による業務効率化をさらに推進することが重要

(2) 第8次島根県保健医療計画の策定について

○診療所医師の高齢化・後継者不在について

(大田市医師会)

- ・診療所が大田市内中心部に偏在している。周辺部への医療提供に課題がある。

(邑智郡医師会)

- ・個々の医師のスキル、やる気で医療がもっている。公立邑智病院、加藤病院があることが心強い。後継者が帰ってきても、経営が成り立つかが課題。

○医師確保計画：タスクシフトについて

(公立邑智病院)

- ・できるだけタスクシフトを推進中。少ない医療資源でやろうとしている。

○外来医療計画：公衆衛生にかかる医療提供体制について

(大田市立病院)

- ・事業所への産業医配置の現状等を見える化してもらえると支援しやすくなる。

○がん：在宅療養患者への支援について

(訪問看護ステーション協会)

- ・件数は多くないが、コロナもあって家族の考え方も変わってきている。老々介護の方も多く、ギリギリまで病院で過ごされてから自宅で積極的な治療を行わずに亡くなる方が多い。

○脳卒中：血栓溶解療法や外科的治療について

(大田市立病院、公立邑智病院)

- ・受け入れを行っていない。消防と連携して適切な医療機関へ早期に搬送している。

○脳卒中：初期症状の啓発や再発予防の取組について

(邑南町)

- ・早期の対応が重要であるので、初期症状の啓発を心掛けていきたい。脳卒中発症状況調査の枠組みに基づき調査を行い行政の役割を担っていきたい。

○糖尿病：重症化予防への取組について

(大田市医師会)

- ・医師会や大田市立病院の専門医が中心になって連携。眼科等へも紹介している。

(邑智郡医師会)

- ・研修会を活用しスキルを上げて診療している。紹介患者は必要に応じ公立邑智病院へ紹介している。

(大田邑智歯科医師会)

- ・糖尿病手帳を持参する患者が増えた。口腔ケアの啓発も行いながら診療している。

(島根県薬剤師会大田支部)

- ・糖尿病に関する出張講座を行う頻度が増えた。薬についても連携していきたい。

(邑南町)

- ・健診の結果により医療機関へ紹介している。  
邑南町オリジナルの手帳を作成。できるだけ活用しやすい形ですすめている。
- 精神疾患：認知症疾患医療センターの取組について  
(石東病院)
  - ・診断について、かかりつけの先生方が重要であり、今後とも連携をお願いする。  
また、作業療法士会とも連携している。大田市外の関係機関との連携が課題。
- 救急医療：上手な医療のかかり方の啓発について  
(公立邑智病院)
  - ・公立邑智病院を支援する会の力が重要。これからもお願いする。  
(大田市)
  - ・「私の町の看護師さん」の活動として看護師 0B が地域に出かけ上手な医療のかかり方の啓発について寸劇をしている。
- 小児医療：小児救急について  
(訪問看護ステーション協会)
  - ・大田市内7か所の訪問看護ステーションのうち3か所が病院と連携しながら小児医療を提供している。
- 在宅医療：ICT の活用について  
(加藤病院)
  - ・オンライン診療が始まっている。今後は現地で診療用の車にいる職員が病院にいる医師にオンラインでつないで診療する、という形を考えている。  
(大田地域介護支援専門員協会)
  - ・導入しているソフトの関係でまめネットを活用できていない。  
有効活用している事業所もあるので、対応できるようにしてほしい。

### 3. 報告事項

#### (1) 公立邑智病院における公立病院経営強化プランについて

(公立邑智病院)

- ・病院の基本方針、実績、経営方針、意見に対する回答等について説明。

※会議開催前に委員より書面にて意見聴取し、プランに反映させている

#### (2) 外来医療計画における新規開業者への協力事項及び医療機器共同利用計画について

- ・大田市で診療所が新規開設された。現行計画で大田圏域は医師多数区域に該当しているため、初期救急、在宅医療、公衆衛生への協力について確認し同意を得た。
- ・4医療機関から医療機器共同利用計画書が提出された。公立邑智病院のCT・MRI・マンモグラフィー及び三笠記念クリニックのCTについては、共同利用を行うということで提出があった。大田市国民健康保険仁摩診療所及びこまめクリニックのCTについては、共同利用を行わないということで提出があった。

(3) 診療所の廃止について

(加藤病院)

- ・ 医療機能の集約化を考え、仁寿診療所ながひさ、仁寿診療所そじきについて廃止としたが祖式については巡回診療という形で引き続き診療を行う。

(1) ~ (3) とともに意見なし